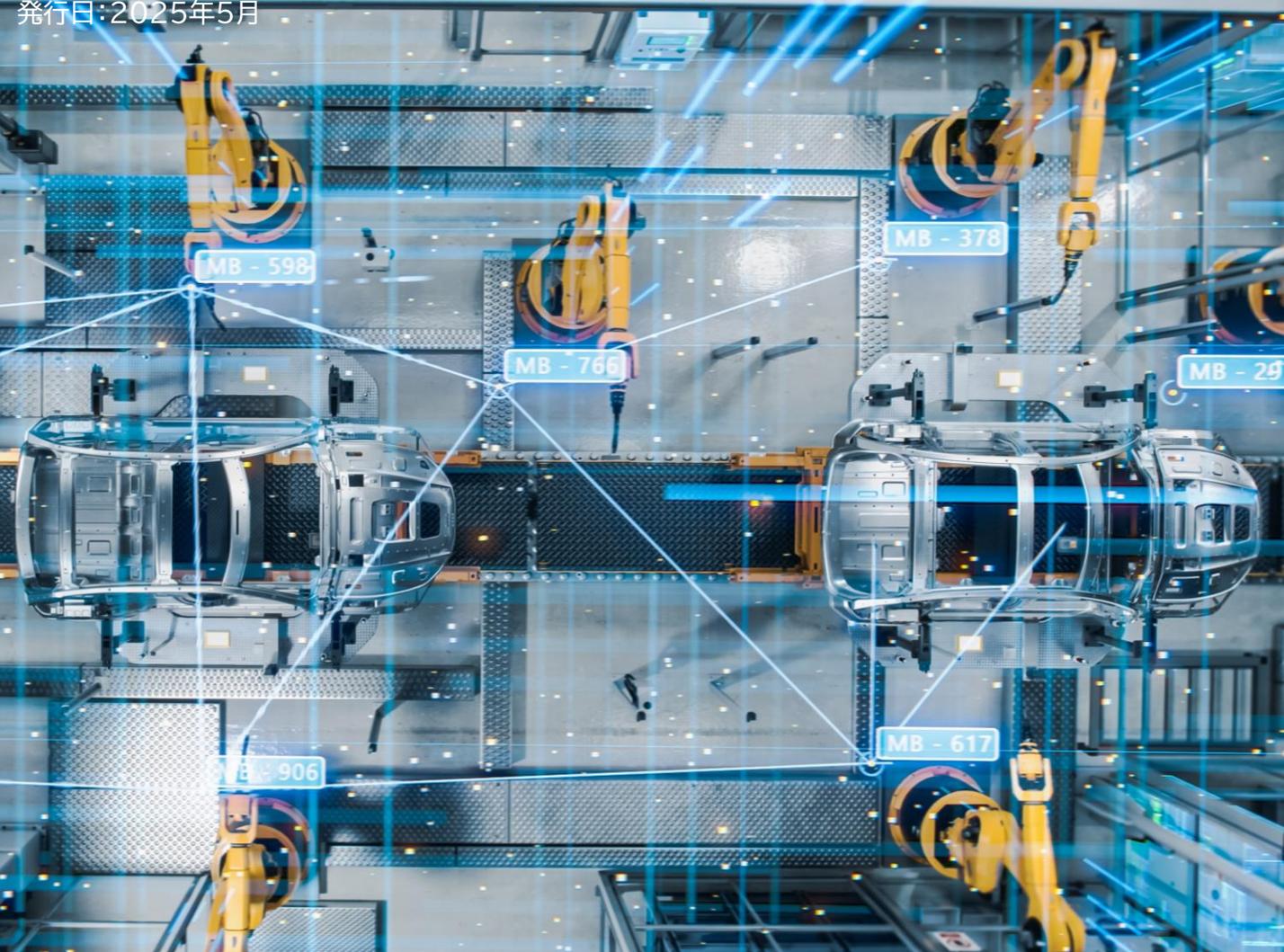


発行日:2025年5月



SVPインサイトVol.47

スマートファクトリー

～国内市場の現状と将来展望～

本レポートは、2023年4月発行の注目市場分析レポートに基づき作成しております。
また、上記レポートは当社会員向けに提供をしております。

ANNIVERSARY
50th
SVP JAPAN

I. 市場の定義

スマートファクトリーとは、IoTやAIなどの先端デジタル技術を活用し、生産性の向上や、設計から製造までの一体的な最適化・効率化といったDXを推進する工場を指す。従来のFA(ファクトリーオートメーション)やロボット導入に留まらず、データの収集・蓄積・分析を通じたフィードバックにより、柔軟かつ省力化されたものづくりを可能とする。市場定義としては、①制御装置・センサー、②データ活用システム(MES、PDM/PLMなど)、③ネットワーク機器の3領域で構成され、これらが工場のデジタル基盤を担う。設備そのもの(ロボットや工作機械)は対象外とし、システム基盤としてのスマート化を支える製品・サービスが調査対象となっている。

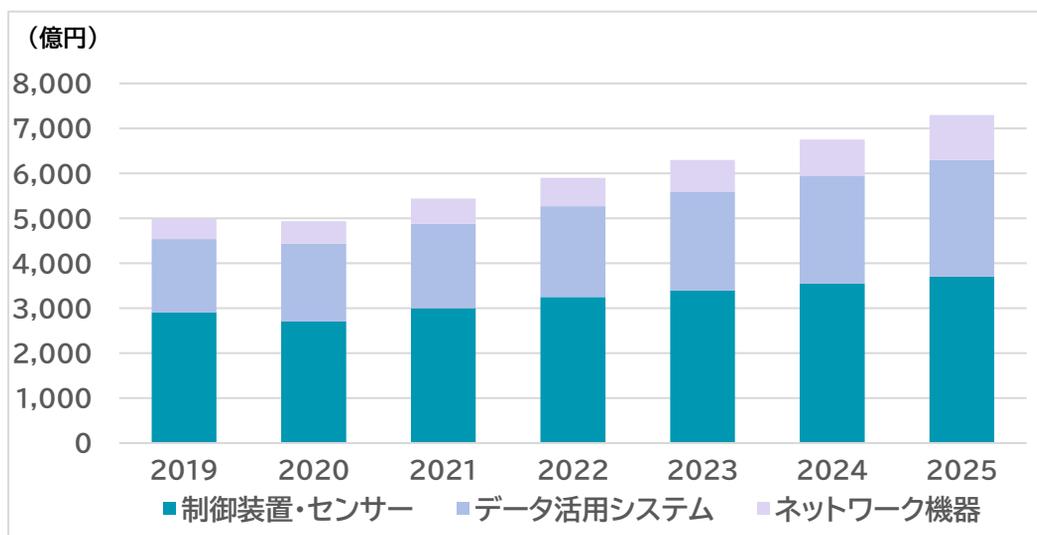
II. 市場動向

スマートファクトリーは、ドイツの「インダストリー4.0」や日本の「コネクテッド・インダストリーズ」に代表されるように、製造業の競争力強化策として注目を集めている。特に日本では、少子高齢化に伴う人材不足や技術継承問題への対応、省エネ・CO2削減といった課題解決手段として導入が進んでいる。2020年はコロナ禍で一時停滞したものの、2021年以降は自動車、電気・電子、半導体業界を中心に回復。特に工場のリモート対応需要が成長を後押しした。経済産業省はスマートファクトリーの導入を段階的に整理し、各企業は自社の状況に応じたスマート化レベルでの投資・導入を進めている。

III. 市場規模・予測

2022年の国内スマートファクトリー市場は、出荷金額ベースで約5,900億円と推定される。構成比は、制御装置・センサーが最も大きく、次いでデータ活用システム、ネットワーク機器の順となっている。2020年はコロナの影響で減少したが、2021~22年は8~10%の回復成長を記録。ネットワーク分野ではローカル5Gの導入ニーズも拡大傾向にある。今後は2023~25年にかけて年平均7~8%の成長を見込み、2025年には市場規模が7,300億円に達すると予測される。

スマートファクトリー・市場規模推移

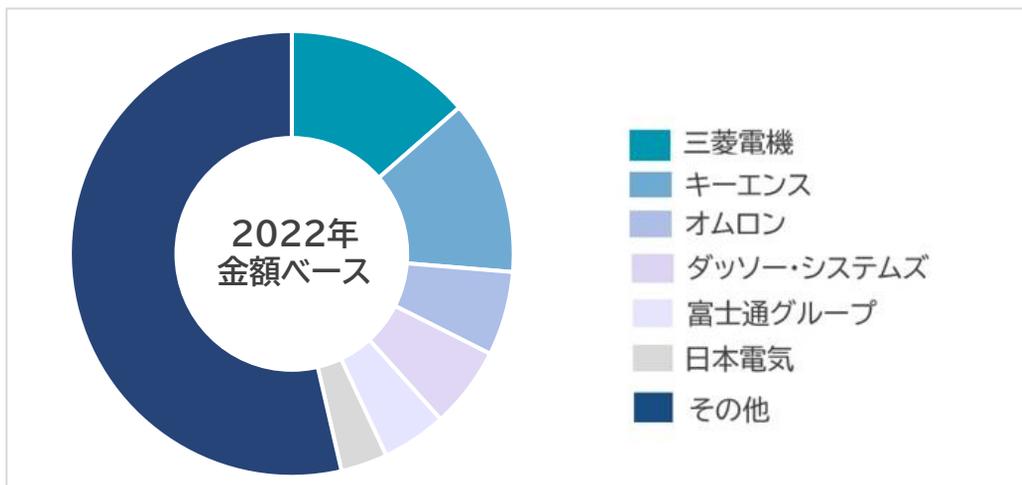


※SVPジャパン推定

IV. マーケットシェア

国内スマートファクトリー市場では、PLCなどの制御装置やセンサーを主力とする三菱電機とキーエンスが高いシェアを占めている。業務システム分野では、CAD/CAM、PDM/PLM システム等を提供する富士通グループや日本電気が主要企業として位置づけられる。加えて、ダッソー・システムズやシーメンス、日本ヒューレット・パッカート、シスコシステムズといった外資系メーカーも高いシェアを有している。

スマートファクトリー・マーケットシェア



※SVPジャパン調べ

V. 参入企業の動向

各社が自社の強みを活かした戦略で競争力を高めている。三菱電機は、豊富なFA機器と1,000社超のパートナー企業との連携による「e-F@ctory」を展開し、世界シェア1位を持つPLCをはじめとするFA機器全般でシェアが高い。キーエンスは、センサーや端末機器を主力に、製品単体の高機能性と迅速な提案力で成長を維持している。オムロンは、いち早くIoT・AI技術を取り入れ、EVや5G関連分野に照準を合わせた製品展開で成長分野を捉えている。富士通グループは「COLMINA」ブランドを軸に、シーメンスとの協業を通じてPLMやMESなどのクラウドサービスを強化。日本電気は自社工場での実証を活かし、AI技術を組み込んだ監視ソリューションを提供している。加えて、ダッソー・システムズやシスコシステムズといった外資系企業も、日本市場向けの戦略提携で影響力を拡大中である。

VI. 業界構造

スマートファクトリー関連のメーカーは、FA機器メーカー、業務システム開発ベンダー、ネットワーク機器メーカーの3つに大別され、それぞれが市場の中核を担っている。業界構造は、販売代理店やエンジニアリングを担う産業機械商社やエンジニアリング会社がメーカーと提携、製品の提案から導入までを一体で提供する体制が取られている。産業機械商社は販売だけでなくエンジニアリング機能も併せ持ち、導入支援の重要な役割を果たしている。



1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓ 戦争の勃発
- ✓ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行
- ✓ 気候変動



変化②

ビジネス環境の
変化



- ✓ テクノロジーの進化
- ✓ グローバル化
- ✓ 新世代の台頭
- ✓ 破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1 幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



3 成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無



2 質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3.当社サービスが提供する価値

ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPトレンド調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績 導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

詳しくはこちら

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

詳しくはこちら



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

こちらをクリック



お問い合わせ

こちらをクリック



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。

TEL : 03-3249-0771

